鴻陵生へ （校長室だより）

平成26年9月17日　NO. 3
発行　校長　本城　学

鴻陵祭

－継承と発展を－

私にとって初めての鴻陵祭。４月の赴任以来多くの人（生徒・先生・保護者など）からその素晴らしさについて聞いてきました。自分の目で確かめるべく、準備段階から可能な限り見るようにしました。やはり３年生の演劇の準備が早く、集団で発声練習が始まったのは６月中旬でした。それから夏休みをはさんで２ヶ月半。そして、本番の鴻陵祭の２日間がありました。

感想を一言で言えば、素晴らしいの一言に尽きます。１年生の各アトラクション発表、２年生の食品販売。どれも、工夫を凝らし「本物志向」のこだわりが感じられ、レベルの高い発表だったと思います。そして何と言っても３年の演劇発表。演技そのもの、舞台・衣装づくり、外装、垂れ幕、当日の係（照明や案内誘導）等々、クオリティがものすごく高く、高校生のクラス発表でここまで出来るのか、と大変感動しました。特にどのクラスも、一つのものを仕上げるため、みんなで協力して一生懸命力を合わせていたことが素晴らしかった。廊下でミシンを操作していた女子生徒、夏休みの朝方、近くの公園で殺陣の練習をしていた男女の役者生徒、家でやったことがあるのかどうか、トンカチやのこぎりと一生懸命格闘していた生徒・・・　それぞれの生徒が自分の役割をしっかり果たして、結果として一つの大きな作品をみんなで仕上げてくれました。素晴らしい。１，２年生も準備開始時期の関係で、時間の長さ自体は３年生と比較することは出来ませんが、同様に、それぞれがそれぞれの役割を責任持って果たした結果、素晴らしい当日の発表だったと思います。

一方、部活動でも日頃の活動の成果を遺憾なく発揮して、内容の濃い・充実した発表をしてくれました。有志団体を含め、全てを見れたわけではありませんが、体育館に多くの観客を集め釘付けにした各団体の発表は見事でした。また、書道室や美術室の作品、作法室のお茶などは、大変な賑わいの文化祭の中で一時の清涼を感じる時間でした。

後夜祭は３階屋上から俯瞰していました。全校生徒に近い数の鴻陵生が、円を作ってフォークダンスを踊り、リーダーにあわせ雄叫びを上げる様は、鴻陵生の一体感にあふれていました。

フォークダンス

後夜祭での雄叫び

全体を通じて、鴻陵生の頼もしいエネルギーを強く感じました。裏方で苦労した生徒の皆さんがたくさんいると思います。本当にありがとう。ご苦労様でした。

さて、内容のクオリティや教育的効果が高い鴻陵祭も、課題や悩みがないわけではありません。３年生の進路学習と演劇準備のバランス、授業時間確保とのバランス、環境配慮型社会にあって大量のゴミの問題等々・・いろいろとあります。特に常につきまとう３年生の抱える悩みや葛藤。それと真正面から向き合いながらもがくことも、大事な成長の糧だと思っています。一方、ここ数年鴻陵祭実施に向け多くの改善がなされてきましたが、社会の変化や現役進学率９０％を越えるようになった本校の現状などから、皆さんとともに更により良いものを求めていきたいとも思っています。大きな枠組みは学校が考えていくことですが、鴻陵祭そのものの課題を克服していくことは、皆さんの自主・自律が求められる部分です。伝統のエッセンスを大切にしながら、変化に対して柔軟でしなやかに対応していくこと、それこそが「継承と発展」ということだと考えています。発展は、良いものの足し算だけでなく、スクラップ＆ビルドも大切な要素です。みんなで考えていきましょう。

最後に、鴻陵祭を終えた３年生へ次の一文を贈ります。１２年前の卒業生の文です。

「文化祭が終わると受験勉強にもより一層力を入れるようになりました。受験は自分一人で頑張るものと思っていましたが、文化祭で一つになったクラスの仲間と一体になって臨んでいる様に感じました。目指すゴールは違っても、みんな一緒に志望校に合格したいと、心を一つにして頑張りました。そして志望大学に合格することができました。」

伊藤淳史（54 期生　H14 卒　俳優）

（PTA 広報「鴻の台」第 100 号（2008.3.7）より）

頑張れ　３年生！